

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	無錫市の農村住民の生活環境改善と生計向上
(2) 事業の必要性(背景)	(イ) 背景: ①2007年5月太湖無錫周辺にアオコが大発生し、生活用水・工業用水が使用不可能となりパニック状態という問題が発生した。 ②北京政府は対応の遅れに苦慮し、無錫市を中国環境改善のモデル市に指定した。 ③その背景に都市と農村の生活環境・生計所得における格差が存在している。 (ロ) 必要性: 北京政府が無錫市を環境改善のモデル市に指定していることから、日中産官学民一体型の協力による無錫市の循環型環境社会の形成に成功すれば、中国全土への環境改善に大きな影響を与える事になり、また日中友好の新しい一里塚となる。 (ハ) 必要性和効果: 鉄路橋村は15の自然村から成り立っている。モデルとしての自然村を完成させると鉄路橋村の全体村モデルは出来上がる。従って本事業において端楷自然村600人のバイオマスタウンモデルを完成させる計画である。この端楷自然村の成否が鉄路橋村モデルから無錫市140村モデルへの重要なカギとなる。添付資料A参照。
(3) 事業内容	<u>1. アオコ処理装置の設置→20t/年(生成量)</u> 水質汚染が問題となっている太湖のアオコを処理するための装置を設置し、太湖浄化槽とともに有機肥料と有機燃料の原料として循環させる。 <u>2. 汚泥処理装置の設置→5t/年(生成量)</u> 浄化槽が稼働することによって、汚泥(アオコも含む)が発生する。その汚泥を処理するプラントを設置し、有機肥料と有機燃料の原料として循環させる。 <u>3. バイオ式生ゴミ処理機(コンポスター)の設置→45t/年(生成量)</u> 2. で処理された汚泥から堆肥を産出するための、コンポスター(生ゴミを利用し堆肥を作る容器)を設置する。これにより有機堆肥を産出し、有機野菜の栽培に使用する。 <u>4. 油化装置の設置→200kg廃プラスチック(200L)→6万 KL/年燃料(生成量)</u> 資源ごみ(廃プラスチック・廃食用油・木質類等)を油化・精製装置により燃料或は発電を行い収益化を図る。 <u>5. ワークショップ等の開催(日本から専門家を派遣)</u> <u>対象者: 行政官・技術者・住民</u> 1. アオコ処理装置に関する技術研修、維持管理研修、啓蒙活動を行う。 2. バイオ式生ゴミ処理機(コンポスター)に関する技術研修、維持管理研修、啓蒙活動を行う。 3. 浄化槽の維持管理のための技術研修、意識改革教育を行う。 4. 油化装置に関する技術研修、維持管理研修、啓蒙活動を行う。 5. バイオマスシステム(ゴミの分別回収～再生産有機物(有機野菜等)の販売に至るシステム)構築のための知識教育・ワークショップ・実地研修・啓蒙研修を実施する。 6. 野菜の食品安全基準とブランド化及び流通経路の確立。
(4) 持続発展性	持続発展性のため3大要素は、①官民の環境への意識変容の定着、②中国政府の環境公共预算計上、③機材装置製造・維持管理の事業会

	<u>社の設立である。</u> ①行政官の意識変容については、無錫市人民政府・宜興市人民政府の幹部73名の幹部日本研修を無錫市・宜興市の予算で完了している。住民の意識変容については、第1期日本NGO連携無償資金協力事業において既に始まっており、その効果は確認されている。 ②太湖水質浄化モデル都市として無錫市人民政府の公共予算が年々実施されているが、汚染原因の約30%を占める農村地区への予算化が不十分であったが、今後は可能となってきている。(24年度全人代会) ③機材装置製造・メンテナンス事業として、日本での経験を生かす日本企業(北九州エコタウン)と合作して現地化していく中国企業(艾特克企業集団・北京森蘭特科技有限公司・無錫市益家康蔬菜事業合作社・無錫市科学技術協会等)との協議を開始している。 以上の持続発展性のためには、日中産官学民一体型の事業協力が不可欠である。 ④維持管理体制については、行政責任者:無錫市環境保護局劉局長・方惠山区副区長・鐵路橋村許書記・陸主任の体制の下に、村農民リーダー50人体制が実行部隊を編成する。2014年第三期事業終了後は、日中合作会社(維持管理目的の特別会社)が無錫市政府から維持管理・住民サービスを事業として請け負う体制に移行する。
(5)期待される成果と成果を測る指標	本事業実施による裨益者と期待される効果は以下の通り。 1. 被益者:端楷自然村約600人の農村住民、行政官、技術者 2. 期待される成果: ①生活排水汚水が浄化槽処理される(衛生環境改善と太湖汚染の原因除去) ②生計向上が期待されるバイオマスシステムが実施される(ゴミ資源のバイオ処理が生産する有機堆肥・燃料が収益源となる) ③有機堆肥・有機野菜・燃料の生産量目標値(本事業年度) ア. 堆肥年間7t→(ごみ原料200kg/日÷70t/年→堆肥7t) イ. 施肥年間14,000㎡畑(7t施肥) ウ. サツマイモ収穫28t/年→(1000㎡×2t×14)【重量 計算容易】 エ. 市場価格÷300万円÷120世帯=25,000円/世帯 ④ワークショップ研修目標(本事業年度) ア. 行政官5名 指標:端楷自然村の計画実施が指導でき、なお鐵路橋村の15自然村への実施計画が策定できるようになる。 イ. 自然村リーダー50名 指標:端楷自然村の600名裨益者の班長となり、なお鐵路橋村にある15自然村のワークショップに参画し実習時の他村の班長を指導できるようになる。 ウ. 裨益者農民600名(年2回) 指標:鐵路橋村の有機野菜の生産・販売を実践し、恵山区の約20村への有機野菜生産・販売の率先協力者となる。 ⑤2013年第二期事業終了後、無錫市鐵路橋村自然村15村、恵山区約20村対象のバイオマスビレッジ=新農村建設計画が決定され、2014年第三期事業終了後、7区の新農村建設計画が策定される。